

麻酔科

部長 杉本 健太郎

2020 年活動状況

現在は小坂誠、杉本健太郎、野島宏悦、鄭芳毅、須賀太郎、上坪知世の 6 名の医師と外部からの応援を得て麻酔管理を行っています。2018 年 4 月に、元日本麻酔科学会理事長・前岡山大学学長として日本麻酔科学会と岡山大学をリードしてこられた森田潔医師が病院顧問に就任されて、麻酔科の人的厚みは増してきました。年間の麻酔科管理症例数は 2648 件（前年比 118.4%）でした。

麻酔科管理症例の内訳は別表に示しますが、その特徴を以下にまとめます。

1. 科別に見ると整形外科が最も多く、続いて外科、心臓血管外科となりました。
2. 近森病院は救急病院であるため整形外科手術がとても多く、特に高齢者の骨折手術が多いです。症例によっては麻酔施行のリスクが高すぎて、全身麻酔管理を躊躇する場面もありました。しかし、整形外科の先生方の「この患者さんは今手術をしないと一生寝たきりになるので、どうしても手術が必要なんです」という情熱に動かされ、「極力断らない麻酔科」を目指しています。
3. 心臓血管外科においては 398 件の麻酔管理を行いました。冠動脈バイパス手術、大動脈解離手術などの緊急手術が多いことが特色ですが、麻酔科も良好な手術成績に貢献しています。2014 年末より当院で行われてきた TAVR（経カテーテル大動脈弁置換術）は累計 300 件を超えました。チームワークが大変重視される TAVR 治療において、当科は安定した麻酔、繊細な循環管理でチームに大きく貢献しております。2019 年 3 月には四国初の TAVR 専門施設に認定されました。
4. 麻酔科管理症例の内、1030 件（38.9%）が術前麻酔リスク評価で高リスク（ASA-PS 3 以上）でした。ER、ICU、内科系外科系各科の充実している当院へは、高リスクの症例が数多く搬送されてきます。麻酔科でもリスク評価、術中管理を綿密に行い、合併症の少ない周術期管理に貢献しています。
5. 全身麻酔に伝達麻酔（末梢神経ブロック）を併用する症例が多いのも当科の特徴です。伝達麻酔は出血や感染に伴うリスクが少なく、抗凝固療法中の患者さんにも比較的安全に行えることから、積極的に併用して患者さんの疼痛軽減、早期のリハビリ開始に役立てています。

（表 1）手術部位別分類

脳神経・脳血管	135	頭頸部・咽頭部	94
胸腔・縦郭	43	胸壁・腹壁・会陰	134
心臓・血管	362	脊椎	35
胸腔+腹部	16	股関節・四肢（含：末梢神経）	1165
上腹部内蔵	220	検査	1
下腹部内蔵	428	その他	15

今後の展望

以上のように緊急手術、ハイリスク手術、高齢者手術が多いことが近森病院麻酔科の特徴ですが、少ないマンパワーにも関わらず大きな問題を起こすことなく管理しております。これには先任の楠目部長・末盛部長が築かれたシステム、人的財産によるものが大きいと考えています。特に、手術室看護師、急性期 CE(臨床工学士)チームは積極的に関与してくださっており、手術麻酔の安全・効率的な運用の大きな支えとなっております。

昨年の反省点としては学会発表、研究活動が少なかったことがあげられます。研究、情報発信にも精力的に取り組んでいきたいと思えます。また、今後の重要課題として、マンパワーの補充をはかり外科系各科、ER の要望に十分応えられる土台作りを目指したいと考えています。近森病院で一緒に仕事をしたいという麻酔科医、研修医の皆様には是非気軽に声をかけていただきたいと思えます。



学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
非常に稀な高齢者における右室二腔症修復術の麻酔管理	鳴神江莉、野島宏悦、谷美里、古曾部和彦、小坂誠	日本心臓血管麻酔学会第25回学術大会	9月20日 Web開催
TAVI直前的大腿骨頸部骨折受傷でTAVI施行4日後に人工骨頭置換術となった1例	安田めぐみ、鄭芳毅、野島宏悦、小坂誠	日本臨床麻酔学会第40回大会	11月13日 Web開催

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
大腿動脈送血で逆行性大動脈解離を起し人工心肺離脱に外腸骨動脈ステントが有効であった一例	古曾部和彦、杉原真由、谷美里、野島宏悦、杉本健太郎、小坂誠	Cardiovascular Anesthesia 日本心臓血管麻酔学会	24巻1号 Page167-171 (2020.08)
PART4 術後管理 42 術後早期のリハビリテーションの実際	小坂誠	LiSA メディカル・サイエンス インターナショナル	27巻 別冊'20 秋号 Page275-278